

低コスト森林施業技術で 持続可能な森林の利用を目指す

林業研究所

県内では近年、伐採された人工林のうち約7割が、「経費がかさむ」という理由から植林が行われずに放置されており、こうした状況が続くと、林業経営の持続性や森林の公益的機能が失われるおそれがあります。

このため、当研究所では育林コストの半分以上を占めている植栽から初期保育までの費用を低減して収益性を改善する方法を研究し、植栽されない伐採跡地の解消を目指しています。

研究している低コスト技術(対象樹種:スギ)



現在までの結果

1 コンテナ苗の利用

コンテナ苗秋植えの生存率は良好

秋植え苗の生存率(植栽:H27.10~11月、調査:H28.5~6月)

試験地	苗種類	生存率	健全率 ※	植栽密度
1	コンテナ苗	100%	96%	1,000本/ha、1,500本/ha、3,000本/ha
2	コンテナ苗	99%	79%	2,500本/ha
	裸苗	94%	86%	2,500本/ha

※ 被害を受けていない植栽木の割合

2 一貫作業の導入

機械地拵えによりコスト半減

地拵えコストの比較

試験地	地拵え種類	標準入力地拵え費用に対する割合
2	機械地拵え	48.2% ※

※ 標準入力地拵え費用を100%とした場合

3 低密度植栽

4 下刈りの省力化

現在の試験・調査を平成30年度まで行い、結果を分析予定

今後の展開

- ▼ 各研究項目について追跡調査を行い、青森県に適した低コスト森林施業技術を提案します。
- ▼ 低コスト森林施業技術については本研究の成果のほか、国の森林総合研究所等と実施している共同研究の成果を合わせて普及を行っていきます。

お問い合わせ

林業研究所 森林環境部
(Tel017-755-3257)

あおもりの未来、AITC 青森
技術でサポート 産技